

蔚山広域市

【 都市の基本データ 】

1. 人 口 : 108 万 7,648 人(大韓民国の 2.2%、2005. 12. 31 現在)

2. 面 積 : 1.056 km²(大韓民国の 0.06%)

3. 歴 史

蔚山広域市は、1995 年 1 月に蔚山市と蔚州郡が合併し、1997 年 7 月、人口 110 万人の我が国において 7 番目のメガロポリスに昇格した。首都ソウルの 1.7 倍にあたる市域面積と標高 1,000m の山々が幾重にもつながった嶺南アルプスなど、人が住むのに最も相応しい自然環境を有し、韓半島の東南部海岸に位置する北東アジア及び太平洋進出の戦略的な要衝地である。

歴史的にも先史時代の遺跡地が市全域に散在しており、特に国宝第 285 号の盤亀台岩刻画と川前里刻石などに見られるように、燦爛たる先史文化の発生地でもある。

蔚山広域市は、1962 年 2 月に蔚山特定工業地区に指定されて以後、自動車、造船、石油化学産業を中心に成長を遂げ、市民 1 人当り GDP が 3 万ドルを上回るアジアで 4 番目の生産都市であると共に、大韓民国最大の産業都市としての威容を誇っている。

こうした産業成長の過程で都心を横切るが太和江が死の川と化し、大気・水質汚染などによって都市の環境が極度に悪化したのが、

最近の数年間、全市民が力を合わせて環境改善のため献身的な努力をつくした結果、水上レジャースポーツの場になったばかりでなく、水中の生態系復元や水棲生物種が多様性を回復するなど、生命の川として生き返った。

現在、太和江を世界的な川に造成すると共に、自然と人間が共存し、産業と環境が共存する世界で最も環境に優しい生態都市、エコポリス蔚山を建設するため最善の努力を尽くしている。

【 経済データ 】

1. GRDP : 38 兆 6,0621 億ウォン

(広域市の中で 7 位、シェア : 4.9% - 2004 年)

‘03 年 34 兆 4,142 億ウォン 前年対比 12.2%増加

2. 1人当り地域内総生産 : 35,675 千ウォン(広域市にの中で1位)

- 広域市の平均 16,384 千ウォン

'03年 32,088 千ウォンに比べ 11.2%増加

3. 主力業種の生産額比率(2004年)

区分	自動車		造船		石油化学	
	全国	蔚山	全国	蔚山	全国	蔚山
生産額	87兆 5,776 億ウォン (100%)	23兆 7,454 億ウォン (27.1%)	29兆 1,908 億ウォン (100%)	11兆 713 億ウォン (37.9%)	126兆 145 億ウォン (100%)	42兆 6,117 億ウォン (33.8%)
付加価値	29兆 5,442 億ウォン (100%)	8兆 2,316 億ウォン (27.9%)	10兆 7,278 億ウォン (100%)	4兆 2,090 億ウォン (39.2%)	13兆 9,013 億ウォン (100%)	7兆 6,311 億ウォン (54.9%)
事業所数	3,669 (100%)	182 (5.0%)	1,095 (100%)	134 (12.2%)	4,035 (100%)	172 (4.3%)
従業員数	247,490人 (100%)	46,697人 (18.9%)	106,197人 (100%)	36,190人 (34.1%)	145,821人 (100%)	18,371人 (12.6%)

基準: '04年基準 産業総調査

【 公選制度 】

市長	公選 (4年毎)
副市長	任命制 (2人)
市議会	公選 (4年毎、議員定数 19人)
区長(郡守)	公選 (4年毎、4区役所 1郡)
区・郡議会	公選 (4年毎、議員定数 55人)

【 行政制度 】

1. 市の組織

蔚山広域市の組織は1広域市、5区・郡で構成され、公務員定数は5,116人。
(2006.1.12 現在)

広域市は、本庁1室7局1本部39課・担当官142、議会事務局1局、1担当官4担当4専門委員、6直属機関、11個事業所があり、定員は2,291人。

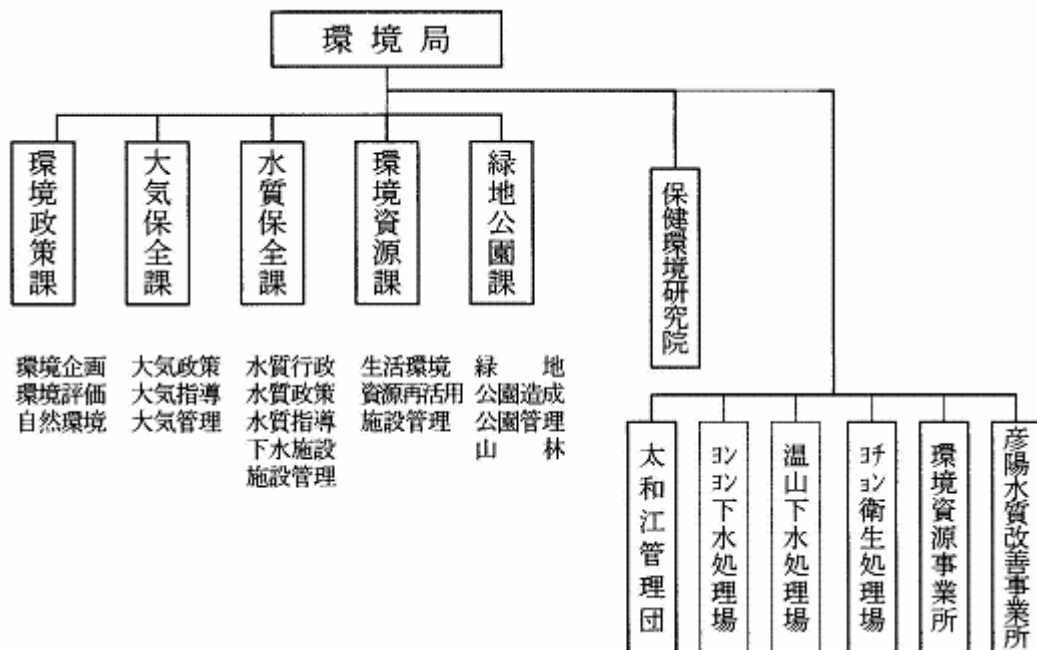
市傘下には5区・郡があり、15局1事務所81係と332担当、議会5、5保健所、58邑面洞で組織されている。定員は2,825人(中区546、南区627、東区470、北区460、蔚州722)である。

2. 環境局の組織

1997年7月15日、広域市に昇格後、市本庁の環境行政組織が環境保全局となり、1998年9月26日の組織改編によって、環境局に職制を改編し、民防衛災難管理局の山林緑地課を吸収。1998年12月30日から現在まで一部の課名称が変更された。また2000年11月1日に蔚山広域市保健環境研究院が開設され、2002年には国家公団管理権が委任された。2006年2月には太和江再生の一環として太和江管理団が新設された。現在、環境局には本庁5課があり、その外に1研究院と6事業所を置き、5区・郡には環境管理課及び環境衛生を設置。研究機関としては蔚山発展研究院と蔚山地域環境技術開発センターがある。本庁環境局所属職員数は、2006年2月現在、313人である。

〈 環境管理人員の現況 〉

総計	環 境 局								そ の 他		
	計	環境政策課	大気保全課	水質保全課	環境資源課	緑地公園課	保険環境研究院	事業所	計	上水道事業本部	区・郡
814	313	18	19	31	15	26	65	139	501	301	200



【 市の基本計画 】

蔚山は自動車、造船、石油化学産業中心の都市である。2004年末基準の工業生産額は96兆6千億ウォンで大韓民国全体の12.1%を占め、2005年基準の港湾物流量は1億7千万トン、輸出は450億ドルで全国2位に位置している。単一工場としては世界最大規模の現代自動車や世界最大の単一精油工場SK、世界第1位の造船所である現代重工業が所在するなど、韓国の第一の産業都市となったが、一方において環境問題など都市発展や市民生活の面で多くの課題を抱えた。

このような課題を克服するため、2004年のエコポリス蔚山宣言に続き、大気環境の改善、緑地空間の確保、河川整備など、企業は勿論のこと全市民の弛まぬ努力によって、蔚山の環境が生命力を取り戻し、自然は手をかけることで蘇るという自信感を持つようになった。

今日までの成果と自信感を基に、『躍動する産業首都・エコポリス蔚山』建設を市政の最優先課題とし、韓国やアジア、そして世界の中の蔚山へと生まれ変わるため、六つの戦略課題を定め、これを集中的に推進している。

1. 先端知識基盤をもつ産業都市の創造

蔚山を自動車産業の世界的な供給拠点に育成し、世界4大自動車産業集積地へと跳躍させるため、2007年を目標年次にオートバレー造成事業を推進している。自動車部品革新センターの建設に続き、自動車技術センターの設立、自動車部品素材団地とモジュール化団地を造成している。

2009年までにテクノパーク団地を造成して化学産業を世界的なレベルに育成し、造船海洋産業の躍進を図ると共に、環境産業を通じて未来先端産業都市づくりを目標にしている。

2. 美しく緑あふれる環境に優しい生態系都市の創造

大気の改善、都市緑地の造成、下水及び廃水処理施設の拡充などによって環境汚染を抑え、生態系の復元と河川浄化によって水辺空間を確保するなど、10分野で110カ所のエコポリス事業を選定し、2010年まで重点的に推進する。

特に、太和江マスタープラン、竹林生態公園の造成、太和江「水の祭典」、太和江景観事業などを通じて、太和江を世界的な河川に造成する。

3. 文化、観光中心都市の創造

市立博物館・文芸会館・公共図書館など文化施設を拡充して、地域文化・芸術活動のための空間として提供し、江東地域を田園複合住居、自然と調和した海洋観光都市として開発。神仏山郡立公園を山岳レジャー・スポーツと結合した休養団地として造成し、特に盤亀台岩刻画、ウエゴ山の伝統陶器村、彦陽邑城を整備・造成して観光資源として活用する。

4. 広域交通、物流体系を備えた自立型都市の創造

京釜高速鉄道の蔚山駅周辺を人と資本、技術の集まる蔚山の新しい成長拠点として開発する。特に、蔚山新港湾と背後物流団地の建設、フリートレードゾーン指定、進入道路を開通させ、国際物流拠点地域として育成し、釜山～蔚山間、蔚山～咸陽間高速道路の建設、東海南部線の複線電鉄化事業など、高速鉄道と高速道路・国道を繋ぐ韓国東南圏の交通要衝地としての開発を目標とする。

5. 人、自然、産業の潜在力に富む地域革新型の学術都市

2009年までに蔚山国立大学を設立し、2011年までに韓国石油公社など11公共機関の蔚山移転を促進し、革新都市の建設を通じて地域における研究(R&D)と学術インフラの拡充を図る。特に、地域の人的資源開発を図るため地域の人材養成と地域

住民ひとりひとりの能力開発を支援し、社会の構成員間の信頼形成を通じて活力に満ちた都市を目指す。

6. 健康で思いやりのある健康都市・蔚山の創造

障害者や老弱者など、社会的弱者に対する支援の幅と質を高め、増え続ける福祉需要を満たすためにも社会福祉施設を増設する。特に、高齢者の職場創出と障害者のリハビリ増進、女性の潜在能力開発に力を注ぐ。

【 環境現況 】

1. 環境法制度(市の条例、規則)

- ・ 蔚山広域市環境基本条例
- ・ 蔚山広域市自然環境保全条例
- ・ 蔚山広域市環境保全諮問委員会条例
- ・ 蔚山広域市環境紛争調停委員会運営条例
- ・ 蔚山広域市「澄んだ蔚山 21 環境委員会」設置及び運営条例
- ・ 蔚山広域市狩猟面接試験委員会及び狩猟講習受講料に関する規則
- ・ 蔚山広域市大気環境基準条例
- ・ 蔚山広域市悪臭排出許容基準条例
- ・ 蔚山広域市自動車アイドリング制限に関する条例
- ・ 蔚山広域市天然ガス自動車購入義務化に関する条例
- ・ 蔚山広域市下水道事業設置条例、施行規則
- ・ 蔚山広域市下水道使用条例、施行規則
- ・ 蔚山広域市廃棄物管理に関する条例、施行規則
- ・ 蔚山広域市環境美化員サービス規則
- ・ 蔚山広域市街路樹造成及び管理条例、施行規則
- ・ 蔚山広域市加智山自然公園管理条例
- ・ 蔚山広域市都市公園及び緑地占用許可に関する条例、施行規則
- ・ 蔚山広域市都市緑化及び造景施設管理条例
- ・ 蔚山広域市保健環境研究院の運営条例、施行規則
- ・ 蔚山広域市糞尿処理手数料に関する条例、施行規則
- ・ 蔚山広域市上水道事業本部水質検査手数料徴収条例
- ・ 蔚山広域市上水道事業会計規則
- ・ 蔚山広域市水道給水条例、施行規則
- ・ 蔚山広域市水道事業設置条例、施行規則
- ・ 蔚山広域市水道水水質評価委員会運営条例

2. 一般現況

《 大気、水質状況 - 2005 年平均 》

区 分	大 気					水 質(BOD:mg/ℓ)			
	S02 (ppm)	NO2 (ppm)	CO (ppm)	PM-10 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	O3 (ppm)	太和江 上流	太和江 下流	ヒヤ江	ドン川
国家基準	0.02	0.05	9	70	0.06	1	3	3	1
汚染度	0.008	0.024	0.5	50	0.022	0.8	2.7	3.7	3.1

S02 変化推移 : (2002)0.010 (2003)0.011 (2004)0.010 (2005)0.008

《 環境汚染源 - 2005 年 12 月現在 》

排出事業所(カ所)			事業所	事業排水	自動車	備 考
計	工団内	工団外	燃料使用量	発生量	登録台数	
1,368	448	920	15,572 (千ト/年)	445 (千ト/日)	380,979	大気 399、水質 569

VOC 排出事業所 225 カ所、悪臭重点管理事業所 34 カ所

3. 主要施策

(1) ヨク洞の産業水道、エコポリス蔚山の建設

蔚山広域市は産業都市としてさまざまな環境問題を市民・NGO・企業・学界・行政が一つになって、その対策を検討する環境保全諮問委員会を 1997 年 7 月制定。環境保全基本対策の基本計画樹立に関する事項と環境基準設定、環境汚染防止事業のための事業者に対する費用負担計画樹立に関する事項などを詳細に検討した。これに基づく環境保全中期総合計画を環境管理、自然環境保全、大気保全、悪臭など生活環境管理、水質管理、上水道管理、廃棄物管理有害化学物質管理、土壌保全、海洋環境保全及び地球環境保全の 10 分野 89 事業プロジェクトを推進し、産業首都・エコポリス蔚山の建設に邁進している。

(2) 美しく緑あふれる環境に優しい生態都市の創造

環境改善のための果敢な投資と努力によって公害都市のイメージから脱皮し、自然と人間、環境と産業が調和した世界的な親環境生態系都市をつくるため、10 分野 110 事業のエコポリス蔚山のモデル事業を推進。生態資源の保全・復元のための自然環境調査及び生態自然図の製作、工業団地内廃熱など副産物リサイクルのための生態産業団地の造成、絶滅危機種に対する体系的な棲息地管理、先進国レベルの大気改善事業、沿岸河川水質改善事業、都心緑化空間の拡充、リサイクル中心の廃棄物管理、きれいな水道水の生産供給などを進めている。

(3) 清く美しい太和江の造成

蔚山広域市の中心を流れる太和江は、産業化、都会化という荒波の中で利水と治水に限定した河川管理が行われ、多様な自然景観と生態空間としての役割が無視されてきたため市民が無関心な川であった。しかし、市民・NGO・企業・専門家・行政が一つになって、太和江マスタープランをつくり、きれいで安全な河川環境、生態系を保全し、生命に満ちた河川、市民に親しまれる水辺環境を造成するため、太和江浚渫事業、汚水遮断事業など水質改善に努力した。その結果、第86回全国体育祭の時には全国水泳大会、漕艇、カヌー大会などが開催されるようになった。生命を育む河川、市民に愛され続ける河川にするため太和江管理団を新設し、同事業をより体系的に推進している。

4. 環境基準

(1) 大 気

項目	基 準	蔚山広域市 測定値 (2005 年度)
亜硫酸ガス (SO ₂)	年間平均値 0.02ppm 以下 24 時間平均値 0.05ppm 以下 1 時間平均値 0.15ppm 以下	0.008ppm
一酸化炭素 (CO)	8 時間平均値 9ppm 以下 1 時間平均値 25ppm 以下	0.5ppm
二酸化窒素 (NO ₂)	年間平均値 0.05ppm 以下 24 時間平均値 0.08ppm 以下 1 時間平均値 0.15ppm 以下	0.024ppm
浮遊煤塵 (PM-10)	年間平均値 70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下 24 時間平均値 150 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	50 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
オゾン (O ₃)	8 時間平均値 0.06ppm 以下 1 時間平均値 0.1ppm 以下	0.022ppm
鉛 (Pb)	年間平均値 0.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	0.0546 $\mu\text{g}/\text{m}^3$

1. 1 時間平均値は、999 千分位数の値がその基準を超えてはならず、8 時間及び 24 時間平均値は 99 百分位数の値がその基準を超えてはならない。
2. 浮遊煤塵は粒子の大きさが 10 μm 以下のホコリを言う。

(2) 水 質

人の健康保護(環境政策基本法 : 河川について)

種 類	基 準	備考
カドミウム(Cd)	0.01 mg/ℓ以下	
砒 素(As)	0.05 mg/ℓ以下	
シアン(CN)	検出されてはいけない	

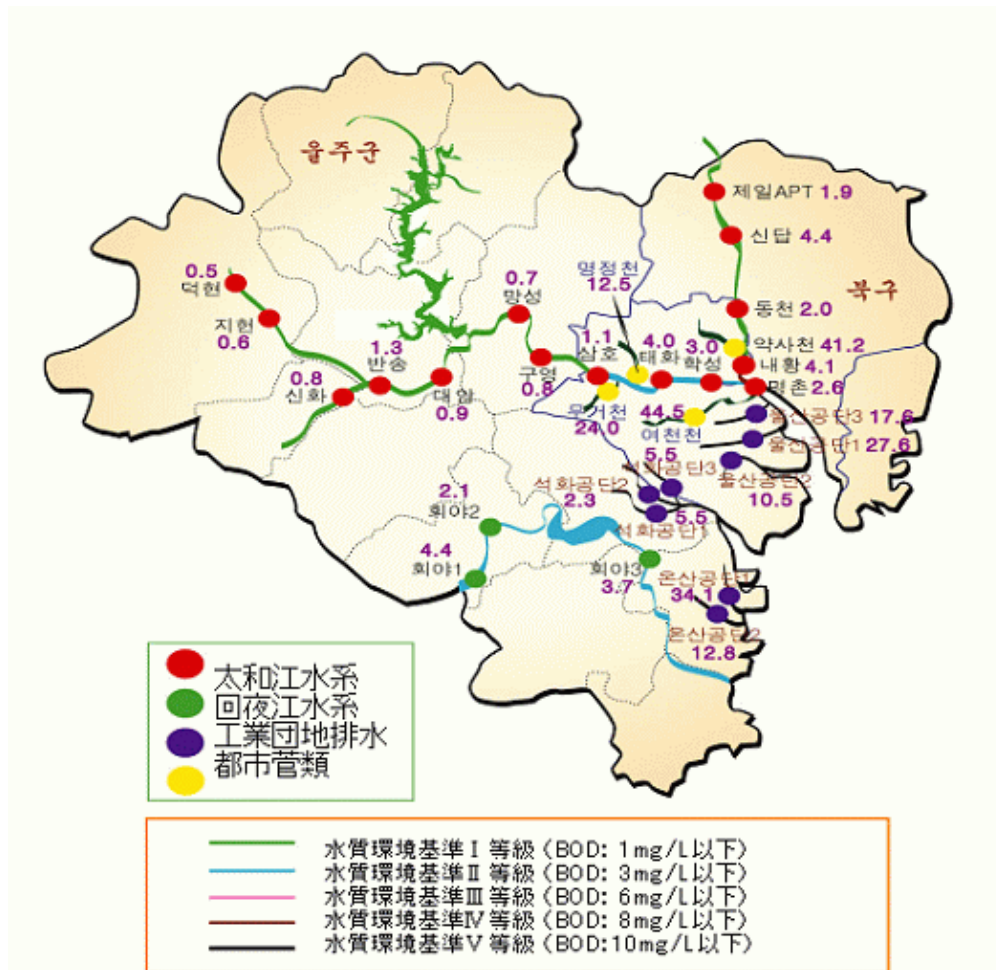
水 銀(Hg)	検出されてはいけない	
鉛(Pb)	0.1 mg/ℓ以下	
6 価クロム(Cr6+)	0.05 mg/ℓ以下	
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	検出されてはいけない	
陰イオン界面活性剤(ABS)	0.5 mg/ℓ以下	

川、湖、地下水、海域について、等級を ~ 等級に分類し、pH、BOD、COD、浮遊物質(SS)、溶存酸素(DO)、総大腸菌数、総リン、総窒素に対する環境基準を環境政策基本法で定めて管理している。

蔚山広域市の主要水系別環境基準及び水質実態

蔚山広域市の主要水系は、西高東低型の地形により、東海に流れ込む太和江、外煌江、回夜江などの水系を中心に成り立っている。

河川法上、河川の数是国家河川である太和江と、地方1級河川であるドン川、地方2級河川100カ所、小河川140カ所など、計242の河川の総延長は659.84kmに達する。蔚山広域市の河川の中で源流が市域内でない河川には、回夜江の一部区間があり、最下流が市域外に及ぶ河川は6河川で、洛東江水系の2河川(ダンジャン川、ソホ川)、ヒョンサン江水系の4河川(ヒョンサン江、ジュンリ川、ブガン川、ファルチョン川)などがあり、主要水系別の環境基準と水質実態は以下の通りである。



5. 廃棄物の発生と処理現況

(1) 廃棄物の発生

イ. 生活廃棄物(一般廃棄物)

1995年から施行されたごみ従量制の実施で、排出者負担原則を適用し、リサイクル品と生ごみの分別排出を誘導したことで生活廃棄物の発生量が大幅に減少した。1日1人当り生活ごみ発生量は、1994年には1.3kgであったが、ごみ従量制(1995.1月)の実施によって、1999年には1.12kgまで減少した。しかし、2000年度には1.28kg、2001年度1.33kg、2002年1.29kg、2003年には1.24kgと多少増加したが、2004年度には積極的なごみ減量化施策の推進などで1日1人当り発生量が1.02kgとなり、前年度対比0.22kg減少した。

韓国の1日当り生活廃棄物発生量は、1994年1,230トンから1999年1,148トンになり、6.7%が減少したが、2001年度1,408トン、2002年度1,382トン、2003年度には1,330トンになった。1994年に比べると、それぞれ14.5%、12.4%、8.1%増加したが、2004年度には1,109トンで、前年に比べ16.6%減少した。

特に、ごみ従量制を含めたりサイクル運動など、積極的なごみ減量化施策の推進と市民意識の向上によって、生活廃棄物の発生量がかなり減少しており、リサイクル率は、2002年に40.7%、2003年42.0%、2004年度には43.8%にまで増加した。

ごみ従量制は排出者負担の原則を生活廃棄物の分野に適用し、リサイクル品と一般ごみの分別排出を誘導することで、生活廃棄物の減量に大きく寄与している。

ロ. 産業廃棄物

産業廃棄物の排出者は、事業場で発生する廃棄物の種類と性状を所轄官庁に届けるようになっており、事業場の一般廃棄物は所轄官庁である地方自治体に、事業場一般廃棄物以外の指定廃棄物については洛東江環境管理庁に届けるようになっている。廃棄物の管理は、事業場の一般廃棄物は地方自治体で、指定廃棄物は地方環境管理庁で管理している。

事業場の一般廃棄物は、1996年から1998年までの経済低迷期には企業の稼働率が落ち、廃棄物の発生量が減少した。しかし、1999年から2000年までにIMF危機を克服し、企業の景気が回復したことで、1日の発生量は1999年の6,930トンから2000年度には5.1%増の7,285トンになった。2001年度に8.4%減少して、6,672トンになり、2002年度から東区、北区、蔚州郡地域の自動車・造船業の好景気によって発生量が増加し、2003年に7,500トン、2004年には8,211トンにまで増加した。

《廃棄物の発生現況》

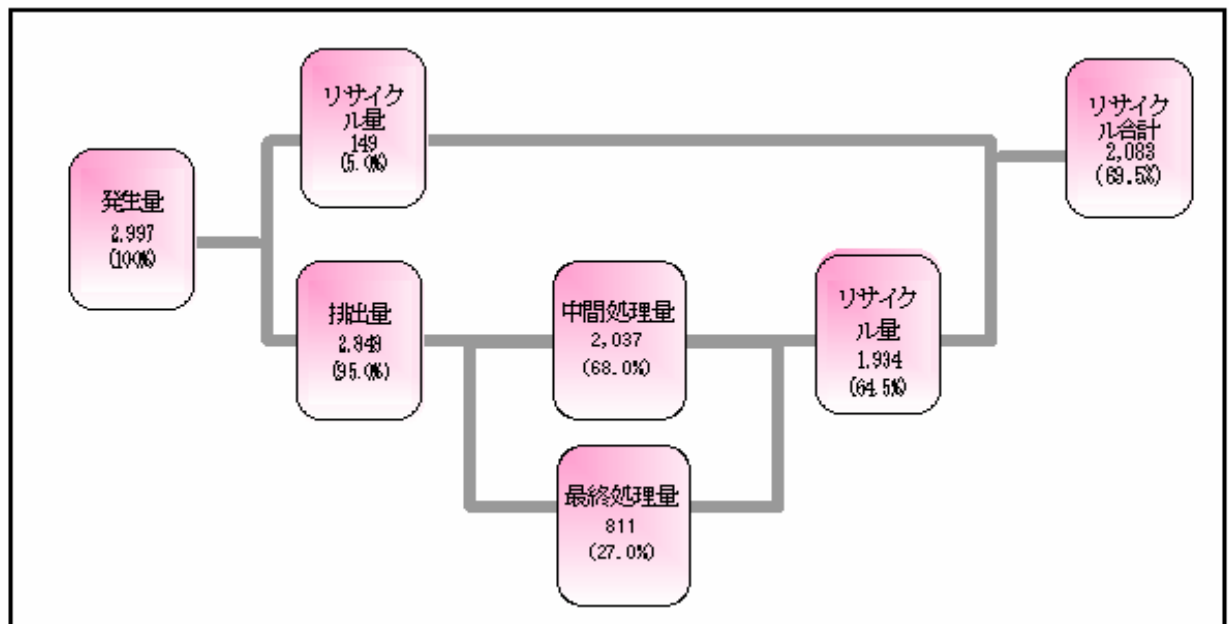
(単位：トン/日)

区 分	2001	2002	2003	2004	備 考
計	8,079.8	8,391.1	8,830.8	9,320.2	
生活廃棄物	1,408	1,382	1,330	1,109	
産業廃棄物	4,276.2	4,867.8	4,865.4	5,468.4	
建設廃棄物	2,395.6	2,141.3	2,635.4	2,742.8	
廃棄物従量制袋：区・郡別条例により、多少違いがある。 南区の場合：5ℓ(100W), 10ℓ(200W), 20ℓ(400W), 50ℓ(990W), 100ℓ(1,980W) 分別収集の種類：19種					

《事業場廃棄物処理の流れ-2004年度》

(単位：1000トン/

年)



6. 上水道の現況

(1) 蔚山広域市の水源池としては、本市が開発した回夜ダム、韓国水資源公社で管理・運営しているサヨンダム、デアムダム、デゴクダムがあり、総貯水量は84,530千 m^3 、有効貯水量は70,510千 m^3 である。

(2) 上水道の普及は、2003年末の普及率が90.6%で、2004年末現在では1,088千人中995千人に上水道が普及。91.5%の普及率となり、徐々に普及率が高まっ

ている状況である。1日平均生産は、2004年現在、326,000千トン/日で、1人当たり給水量は327リットル/日。農村地域まで拡大している。

- (3) 上水道施設としては、浄水場6カ所、取水場4カ所、加圧場12カ所、配水池16カ所個、水道管総延長2,119km、給水件数は67,111件になる

《 上水道施設現況 》

(2004年末現在、単位：カ所、km、件)

区 分	浄水場	取水上	加圧場	配水池	管 路			給水 件数
					計	送・配水管	給水管	
カ所数	6	4	12	16	2,119	1,140	979	67,111

- (4) 上水管路は送・配水管及び給水管を合わせて、1993年1,666kmで、98年2,078km、

2002年2,126km、2004年には2,119kmに延長された。

7. 下水道の現況

(2004年末)

総人口	下水処理人口	下水処理施設数	1日平均処理量	下水暗渠設備
1,095,078	1,003,529 (91.6%)	6カ所 596千m ³ /日	375千cm ³ /日	2,777km
下水処理場は、ヨソソ、回夜、温山、ハソサゴ、彦陽、杵に下水処理場がある。				

8. 環境分野の課題

産業の発達や経済成長によって、今日の環境問題は企業から排出される汚染物質に対する規制から脱して、地球環境問題全般に対する検討が急がれている。自治団体においても地球温暖化ガス(CO₂、CH₄、N₂O、HFCs、PFCs、SF₆など)の排出実態及び規制に対する検討が必要である。環境に優しい都市建設のために自然景観を考慮した都市開発、親自然型河川事業、建物美観、交通公害対策などについて市民・専門家・行政などがネットワークを構築し、各自の立場から環境汚染低減のため徹底的に努力し、市民の欲求に応じなければならない。

資源節約の視点から、製品の生産段階からリサイクル可能な製品を積極開発すると同時に、別収集の機運を高めるための政策開発が必要である。ごみ減量化リサイクル促進するため、中央政府の財政支援及びインセンティブを高めると共に、資源節約及びリサイクルを定着させるためには、市民意識を改善するための多様なプログラムが必要である。

自動車排出ガスによる窒素酸化物及びオゾンなどの大気汚染が加わり、このような汚染物質の原因となる自動車排出ガスを減らすためには、排出ガスの取締りだけでなく、環境に優しい交通文化を定着させるため、アイドリングやめることも重要である。公共交通機関を利用し、出・退勤時の相乗りや近距離自転車通勤、ウォーキングを推奨し、自動車排出ガスを削減の努力が必要である。

水質分野の課題としては、急激な都会化や産業化の過程で、住居地域、工業地域などで河川に流入する汚廃水を処理するための下水排水路や下水処理場など、環境基礎施設の拡充に力を注いで来た結果、かなりの水準に達した。また、2000年以降、本市の中心を流れる太和江を再生するため、行政力を集中した結果、水泳大会など各種の水上競技を開催することができるほどに水環境が改善された。このような成果を土台にして回夜江やドン川など、その他の水系でも管理範囲を拡大し、水質改善中心の自然型河川、生態系的に健全な河川に生まれかわるよう、河川の回復と汚染源抑制に努力して行かなければならない。

また、本流中心の水質政策から、本市は総貯水量基準の上位 40 カ所のダム、貯水池と 40 の主要支流に対する基礎現況調査を進めることで、汚染総量管理制の施行に先立ち、住民の声や支流の汚染度分析、低減目標の樹立など、科学的な水質管理基盤を構築する計画である。

9. 主要な環境管理施設

(1) 生活（一般）廃棄物 埋立施設



ソナム生活廃棄物埋立地は、衛生的な埋立地として 4,255 千 m^2 の規模を有し、1994年4月に竣工され、年間135千トンの生活廃棄物が埋め立てられている。また、将来、5,100千 m^2 の埋立地にするよう拡張事業が進められている。

(2) 生活廃棄物焼却施設



ソナム焼却施設は、国家工団に隣接し、生活廃棄物埋立地の敷地内に建設。2000年5月から現在まで、年間112千トンの可燃性廃棄物を焼却する最先端施設であり、施設容量は400トン/日(200トン \times 2基)の処理能力を備えている。

(3) 太和江生態公園



〈 太和江生態系公園の全景 〉



太和江生態系公園は都心中央を横切って流れる太和江に接した地域に十里竹林及び背後の水辺を生態系学習場、鳥類観察台、市民憩いの場、竹林散策路、竹林浴などを造成し、蔚山 12 景の一つである美しい竹林公園として、市民に休息と安息の水辺空間を提供。

1 日 6,000 人が訪れる生態観光地として脚光を浴びている。

事業費 3,616 百万ウォンを投入。2004 年 12 月 14 日に完成し、面積は 145,609 m²。

(4) 彦陽水質改善事業所



彦陽水質改善事業所は、デゴクダムの飲料水源や太和江の水質汚染を防止するため、蔚州郡彦陽邑・上北・三南面地域の生活下水と畜産廃水などを処理するために2001年3月から72,804百万ウォンの事業費をかけて、2004年11月に完成した。

この事業所は造景樹で全体を公園化し、サッカー場1面やバトミントン場2カ所、バスケットボール場など、14,716㎡の体育施設を設置し、市民に開放している。現在、彦陽水質改善事業所は1日平均15千トン of 下水を安定的に処理しており、平均BODが2.2mg/リットルで放流しており、放流水は太和江の維持水として再利用している。